

京都府向日市

史跡長岡宮跡保存活用計画



2020

向日市教育委員会

第4章 史跡長岡宮跡の本質的価値

第1節 史跡長岡宮跡の本質的価値の明示

長岡京跡は、わが国の都城遺跡のひとつであり、史跡長岡宮跡は長岡宮跡の中核となる遺跡である。

昭和 39 年(1964)の史跡指定以来、遺構の解明のための調査等をもとに重要遺構が継続的に追加指定されている。

長岡宮跡の史跡としての本質的価値は、第1章第2節で概説したが、以下のようにまとめることができる。

なお、史跡長岡宮跡保存活用計画策定委員会の協議の中では、既に史跡として指定を受けたものに対し改めて「史跡の本質的価値」としてまとめる必要性について意見が寄せられた。

長岡宮跡の史跡としての本質的価値

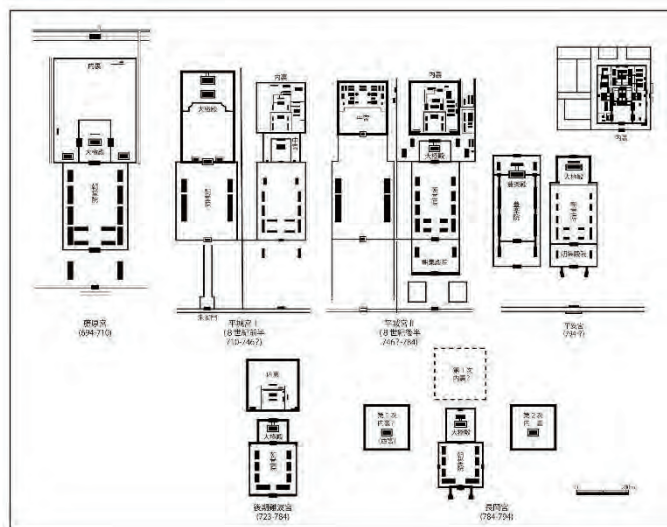
◎長岡京は、桓武天皇が延暦 3 年(784)に平城京から遷都し、延暦 13 年(794)に平安京に再び遷都するまでの 10 年間の都であった。

奈良平城の地を離れ、京都山背国に作られた最初の都であり、奈良時代から平安時代に至る過渡期の都城遺跡として、古代都城間の関係や、都城・宮の構造、政務や儀式、経済の変遷などを考える上できわめて重要な都城のひとつである。

◎長岡宮は長岡京の中央北端部に位置し、史跡指定地は長岡宮内でも、大極殿・小安殿（後殿）を擁する大極殿院、朝堂院、内裏といった宮跡の中核施設を構成する遺構であり、保存状況も良好で、長岡宮整備の姿を示すものとして貴重である。

また、これらの施設の配置や構成は、都城形態の変遷や宮の構造の変遷など、律令国家の成立と展開の過程を知る上でも重要な遺構である。

○長岡宮において新たに創出された施設や配置の変化がみられる部分（大極殿後殿の分離、楼阁建物の造営、内裏の分離など）と、前代の宮都構造を引



4-1 図 大極殿・朝堂院・内裏の変遷図

き継ぐ部分（大極殿閤門の設置、内裏内部の構造など）がみられ、変革期の宮といえる。

○長岡宮大極殿院の新たな構造として、後殿が回廊から独立し、平城宮まで大極殿の北に位置していた内裏が、大極殿から独立して配置され、内裏正殿南には朝堂に相当する脇殿が配された。これは天皇による日常的な政務や儀式の場が大極殿・朝堂院から内裏へ移っていくことで、天皇による直接的な政治が行われるようになったことを示すもので、政治や儀式の大きな転換期を証左する遺構である。

○朝堂院南門の前面に左右対称の翼廊が取り付きその先端には楼閣建物を配置するのは、これまで唯一平安宮応天門でのみ確認されており、楼閣の名称（翔鸞楼・栖鳳楼）から唐長安城大明宮含元殿の影響を受けた施設が長岡宮から導入されていたことがわかる。

○前代を引き継ぐものとして、大極殿院と南の朝堂院は閤門によって区画されていること、内裏は中央やや南寄りに正殿や脇殿を配し、北半に後宮の諸施設などがみられること（内裏正殿等内部の施設部分は史跡指定地外）などである。大極殿院と朝堂院を限る閤門・回廊は、平安宮では無くなり龍尾壇となることから、長岡宮は最後の閤門になる。一方内裏の脇殿や後宮の諸施設などは平安宮に引き継がれるなど、伝統的な配置が保持されていたものがある。



4-2図 百官はじめて朝座に着く（早川和子 作）

○大極殿前庭で検出された宝幢は、長岡京期は天皇の即位式は行われなかったことから、朝賀に伴うものとみられ、これまで文献資料でしかうかがえなかった朝賀の儀式の一端が明らかとなった。

○築地は、調査によって高さ1mに及ぶ築地本体が残存していたことが確認され、古代の築地の数少ない遺存例として極めて貴重な遺構である。

第2節 新たな価値評価の視点の明示

史跡長岡宮跡は、長い調査と保存の歴史をもち、その歴史の中で市民との深い関わりをもちながら今日に至っている。明治以来の歴史をもつ大極殿祭など、史跡本来の価値に付加されて史跡をより豊かにしているものがある。

○調査・研究・保存・整備の歴史と住民のかかわり

史跡長岡宮跡は、JR 向日町駅、阪急東向日駅、同西向日駅周辺の住宅密集地に包蔵される特徴的な史跡である。このため、早くから頻繁になされる住宅開発などに伴い、発掘調査が行われることとなった。

この史跡の調査と保存には、地域住民の活動が密接に関係している。昭和28年(1953)に長岡町神足（現長岡京市）出身の歴史地理学者である中山修一は、条坊の痕跡を現地に求め、「長岡京条坊復元図」を作成した。この復元図をもとに、昭和29年(1954)12月末に、阪急西向日駅前において、長岡宮（京）で最初の発掘調査を行い、翌30年(1955)1月に初めて長岡宮会昌門（後に朝堂院南門と名称変更）を検出した。

昭和36年(1961)に発掘調査を行った大極殿地区は、昭和39年(1964)に史跡指定され、昭和37年(1962)から買い上げを開始し、買い上げ途中の昭和40年(1965)に整備工事が行われ、大極殿公園（都市公園）として供用している。

昭和40年(1965)代になり、住宅開発が激増して阪急西向日駅周辺に位置する長岡宮跡の遺構が大きな影響を受ける中、昭和41年(1966)に寿岳文章^{じゅがくぶんしょう}を会長とし、黒田俊雄と長岡京の発掘調査を実施する中山修一を副会長、小林清を事務局長として「乙訓の文化遺産を守る会」が発足した。同会は、市民自らが地元の歴史を学び、遺跡の広報普及活動、埋蔵文化財発掘調査への支援と、調査により検出した遺構や遺物の保存に取り組むことなどを主目的とし、これに賛同した乙訓地域の多くの住民が会員となった。当時、埋蔵文化財保護の体制が整わない行政に代わり、開発による遺跡破壊の巡視、新たな遺構や遺物の発見、発掘調査後の遺構の保存活動などを実施した。

○2,300回を超える発掘調査―積み上げられる調査・研究成果による長岡京の解明

こうした活動に支えられながら、さらに昭和42～44年(1967～69)に第二次内裏の調査が実施され、内裏正殿の基本的構造や建物配置の一部が明らかとなり、宮域全域を対象として長岡京跡が周知の遺跡となっていく。

これまでの長岡京の発掘調査件数は2,300回（うち宮跡は530回以上）を超え、他の都城遺跡に比べて群を抜いて多く、市域では現在でも年間に15～20件の調査を実施しており、市民がいつでも触れることのできる場所に長岡宮跡がある。時には発掘調査に加わり、時には調査状況を見守り、調査結果を活用して学び触れることで、地域住民に、日々の生活の中で、ごく自然に存在する身近なものとして認識されるようになった。また、これら度重なる調査によって京・宮の構造が解明されつつある。

○長岡宮の顕彰の歴史を象徴する「顕彰碑」と「大極殿祭」

明治28年(1895)が平安遷都1100年になることを記念して、京都市では平安京と桓武天皇を顕彰する祭典開催等の動きが起こった。この祭典に際して、桓武天皇が最初に遷都した都である長岡京についても宮跡の顕彰の動きが地元で起き、地元有志の寄付などによって顕彰碑の建立と建設地の整備が行われた。明治28年(1895)に現在の北大極殿公園に「長岡宮跡大極殿遺址」顕彰碑が建立され、10月19日に建碑式が執り行われた。以後、長岡京に遷都された11月11日には毎年「大極殿祭」が起こり、これが今日まで引き継がれている。顕彰碑は建立以来120年余を経て、長岡京・宮の顕彰のみならず文化財保護の記念物（モニュメント）としての歴史的価値を有しており、また大極殿祭は長岡宮跡の地元住民による保護・継承を象徴する伝統行事として貴重である。

○地域に根付いた身近な遺跡の活用

発掘調査活動の主体は、民間から行政に変わってきているが、現在も地元の多くの人々が見守る中で行われており、その結果や整備された史跡は、発掘調査現地説明会、歴史ウォークや講演会、地元小中学校の生きた歴史教材として活用されている。

伝統行事である「大極殿祭」の終了後には、大極殿遺蹟保存協賛会員及び見学者に対し、長岡京を広報するため、向日市文化資料館の市民ボランティアにより「大極殿祭ウォーク」として史跡めぐりが開催されており、市民による取り組みも活発である。

発掘調査の成果としての長岡宮跡の遺構や出土遺物は、文化資料館での常設展示や発掘調査の現地説明会、講演会、出前講座などで活用しており、各小学校や、法人社屋内などへも積極的に貸し出し、展示してもらうことにより、広く市民の目にとまるようにしている。

○市街地における多様な役割をもつ空間－住宅密集地における市民の憩いの場・災害時の避難場所となる公園

史跡指定を受け、整備・活用している地は、阪急西向日駅前の住宅街の中に公園として点在することから、市民の憩いの場や災害時の一時避難場所などにも活用されており、常に市民が安心できる場所として長岡宮跡の存在が市民の心のよりどころとなっている。

○遺跡と市街地が一体となって形成された歴史的風致

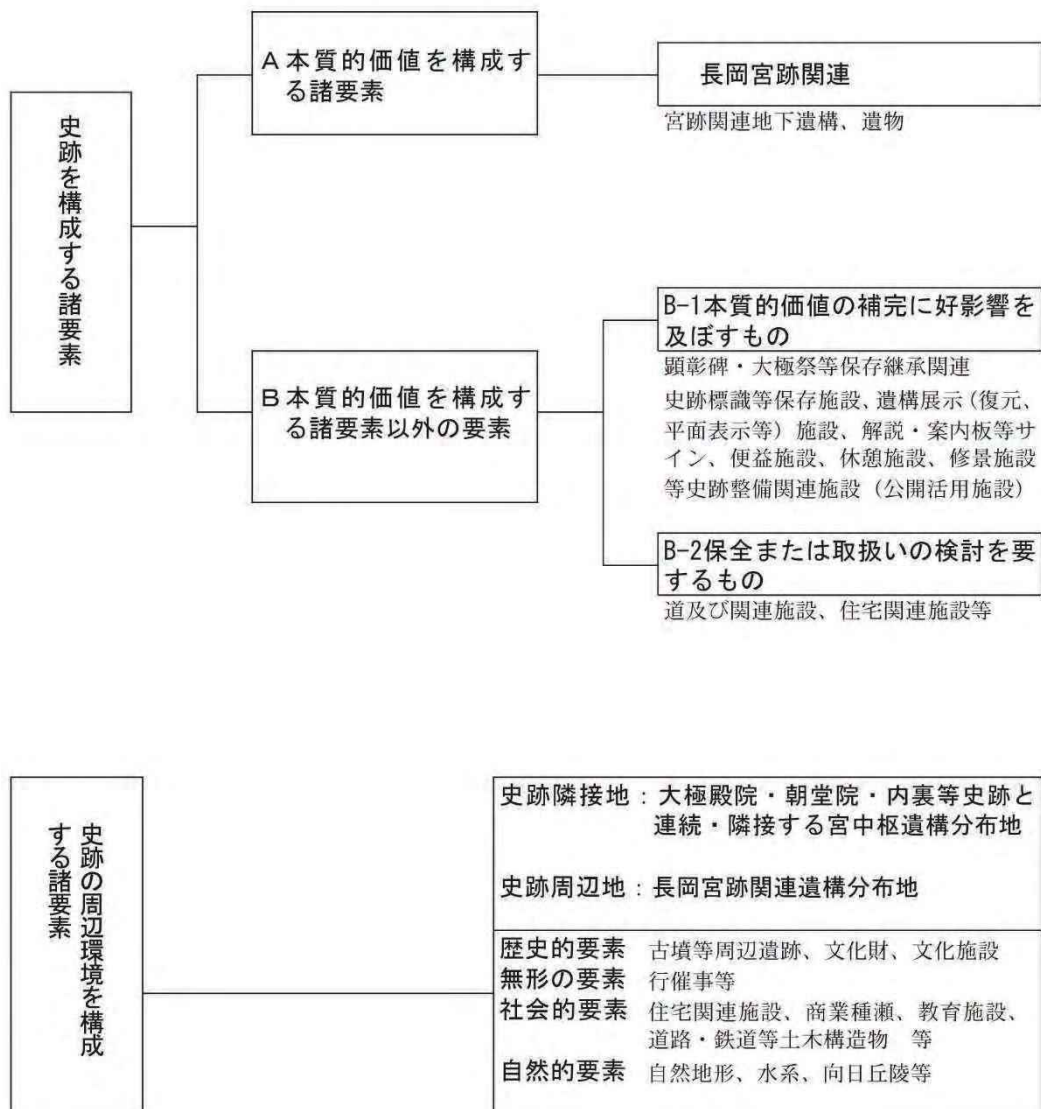
長岡宮跡は、平城宮跡のように広大な範囲がすでに国の特別史跡として存在しているわけではなく、宅地開発などに伴う狭小地において、地域住民の協力を得て発掘する機会が与えられ、その成果をジグソーパズルのようにピースをつなぎ合わせることで、古代の都としてその姿が明らかになってきた。史跡長岡宮跡は、住民の活動とともにあり、伝統と歴史が良好な市街地の景観に溶け込み、一体となってすばらしい歴史的風致を形成している。

第3節 構成要素の特定

史跡長岡宮跡を構成する要素とは、大きくは、長岡宮跡に関わる建物跡遺構等に代表される史跡としての価値（本質的価値）を構成する諸要素と、その他の要素からなる。

その他の要素の中には、史跡の保存活用のために整備された諸施設や、私有地内にある住宅等施設などの長岡宮跡と直接関係しない要素からなる。

また史跡長岡宮跡には新旧の顕彰碑がいくつかあるが、その最古の顕彰碑建立（明治28年(1895)）の建碑式に起源をもつ大極殿祭は、今日まで地域の伝統行事として継承され顕彰碑の前で執り行われている。これらは、史跡そのものの価値を構成するものではないが、前節で述べたように新たな価値評価の視点から保護の対象となると判断されるものもある。



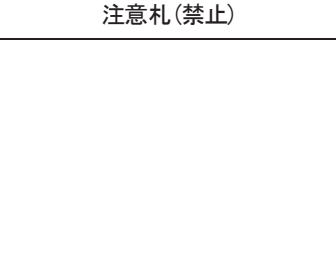
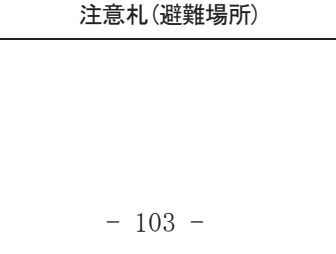
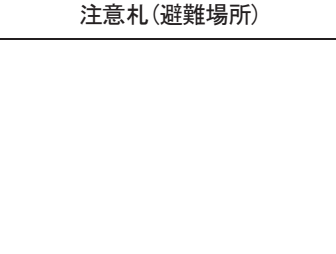
4-3 図 史跡長岡宮跡及び周辺環境を構成する諸要素の体系図

表 4-1 史跡長岡宮跡及び周辺環境を構成する諸要素

史跡の本質的価値		
史跡指定地内	本質的価値を構成する諸要素	
	造成地形	造成地形
	地下遺構（一部地上遺構）	<大極殿院・閤門> 大極殿跡：基壇外周石敷き、地覆石痕跡等 後殿（小安殿）跡：基壇、登廊基壇、根石列、外周石敷き、礎石据え付け穴等 宝幢跡：穴（玄武・白虎孔） 大極殿院西・北面回廊跡：礎石据え付け穴、凝灰岩抜き取り穴 等 大極殿院内郭：石敷 宝幢跡：穴（青龍・朱雀・日像孔） 閤門（南門）跡：東半部礎石抜き取り穴、地業跡 <朝堂院・楼閣> 朝堂院西第四堂跡：根固め痕跡、凝灰岩地覆石据付跡、裏込め跡、東・西階段、石敷き等 朝堂院西面回廊跡：礎石据付穴等 楼閣跡：地覆石据付跡等 <内裏内郭築地> 回廊跡：礎石関連遺構 <築地> 築地跡：築地本体・築地基底土塁（一部地上遺構）、濠状遺構、雨落ち溝、築地構築添柱列
	遺物	軒丸・軒平瓦、平・丸瓦、須恵器、土師器、金属器（雨壺、鉄釘）、土製品（雨壺鋳型）、凝灰岩、鴟尾、円面硯等
	本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	
	保存を目的とする施設	保存施設：史跡標識、境界柱、囲さく（竹垣、生垣、フェンス等）、説明板（指定内容等説明、遺構解説板兼用説明含む）
	公開・活用施設	遺構表現施設：<平面（半立体）表示>大極殿基壇・階段・高御座平面表示、小安殿（後殿）基壇・階段・高御座・礎石、宝幢平面表示（2.5基）、朝堂院第四堂基壇土壇表示、朝堂院築地平面表示、回廊平面表示、楼閣建物平面表示・柱立体表示、南門平面表示、内裏回廊基壇・礎石平面表示、築地基壇立体表示（盛土・張芝） <復元>宝幢復元（2基）、大極殿北面回廊一部立体復元 管理施設：注意札、側溝等雨水排水施設、腰石積等擁壁類、公園灯等照明類、散水栓等給排水施設、手すり、車止め、園路・広場：公園内通路、広場、階段、スロープ、点字ブロック 解説施設：案内板、遺構説明板、点字説明板、表示遺構・公園名称記名板等、AR長岡宮 修景整備：修景植栽、張芝 便益施設：公園案内所（休憩・解説・展示、便所棟）、ベンチ
	歴史的史跡顕彰碑と大極殿祭（無形の要素）	長岡宮大極殿遺蹟顕彰碑（M28） 大極殿祭（M29～）
	その他	道路（市道）関連施設：道路、側溝・柵、電柱） 顕彰施設：行幸啓碑（H22）、遷都1200年記念碑（S59）、 住宅関連建築物・工作物・植栽、石塔 駐車場及び看板等管理施設 その他：祠（道祖神？）、看板（広報板） 都市公園施設：すべり台等遊具、花壇（H9～近隣住民管理）
史跡の周辺環境を構成する諸要素		
史跡指定地外	史跡隣接地長岡宮中枢施設遺構分布地	大極殿院・朝堂院・第二次内裏、第一次内裏（西宮）関連遺構、宮城門（未検出）等長岡宮中枢施設
	長岡宮・長岡京跡関連遺構分布地	春宮坊、大蔵等重要遺構分布地
	歴史的要素	文化財等歴史的的文化遺産：元稲荷古墳（国史跡）等の向日丘陵等に分布する大規模古墳、向日神社、用水・ため池・条里制水田、西国街道と沿道の歴史的建造物
	無形の要素	歴史的的文化遺産にかかわる人々の活動：向日神社関連祭礼、竹林とタケノコ栽培 等
	社会的要素	生活・生業・生産関連施設：住宅関連施設、農地、商業施設、教育施設、業務施設、道路・鉄道等土木構造物 等
	自然的要素	自然地形、河川等水系、植生 等

保存を目的とする施設	4-4 図 ■ 保存施設		
		史跡標識	市境界柱
			
		史跡境界柱	囲さく(フェンス)
			囲さく(フェンス+ブロック塀)
	囲さく(トタン、ブロック塀)		囲さく(竹垣)
			囲さく(生垣)
	囲さく(仮設単管)		説明板(大極殿・後殿地区)
	説明板(内裏内郭築地回廊跡)		説明板(築地跡)
			説明板(大極殿・後殿地区)

公開・活用 施設	4-5 図 ■ 遺構表現 施設		
		大極殿基壇(平面表示)	大極殿階段(平面表示)
			
小安殿(後殿) 基壇(平面表示)	小安殿(後殿) 階段(平面表示)	小安殿(後殿) 高御座(平面表示)	
			
小安殿(後殿) 礎石(平面表示)	宝幢(平面表示 : 2.5 基)	朝堂院第四堂基壇(土壇表示)	
			
朝堂院築地(平面表示)	回廊(平面表示)	楼閣建物(平面(半立体)表示)	
			
楼閣建物(柱跡立体表示)	南門(平面表示)	内裏回廊基壇(平面表示)	

		
内裏礎石(平面表示)	築地基壇(立体表示)	宝幢(復元：2基)
4-6 図 ■管理施設		
		
注意札	注意札	注意札
		
注意札	注意札	注意札(禁止)
		
注意札(禁止)	注意札(禁止)	注意札(禁止)
		
注意札(禁止)	注意札(避難場所)	注意札(避難場所)



側溝



側溝



側溝



側溝・柵



側溝・柵



腰石積擁壁



腰石積擁壁



コンクリート擁壁



コンクリート擁壁



ブロック塀



公園灯



公園灯



公園灯



外灯



給排水施設(量水器)



給排水施設(散水栓)



給排水施設(止水栓・量水器)



手すり(ステンレス)



手すり(スチール)



手すり(スチール)



車止め(スチール)



車止め(ステンレス)



車止め(石柱)



車止め(擬木)

4-7 図

■園路・広場



広場 (平面表示等)



広場 (平面表示等)



通路(石畳)



通路(石畳)



広場 (平面表示等)

		
階段	階段	階段(擬木)
		
スロープ	スロープ	スロープ
		
点字ブロック	点字ブロック	点字ブロック
4-8 図 ■解説施設		
		
	案内板	説明板(長岡宮宝幢跡)
		
説明板(長岡宮大極殿)	説明板(長岡宮大極殿跡)	説明板(朝堂院南回廊と楼閣)



説明板(築地)



点字説明板(大極殿公園)



記名板(後殿跡)



記名板(大極殿跡)



記名板(西濠跡)



記名板(築地跡)



記名板(史跡長岡宮跡・大極殿公園)



記名板(史跡長岡宮跡)



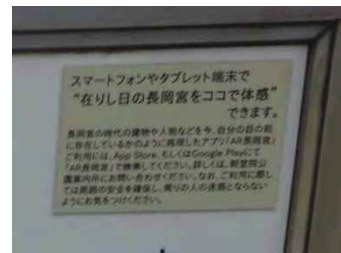
記名板(朝堂院公園)



記名板(記念植樹：十月桜)



AR 長岡宮—内裏公園



AR 長岡宮—築地跡

4-9 図

■修景植栽



修景植栽(大極殿)



修景植栽(大極殿)



修景植栽(大極殿)



修景植栽(大極殿)



修景植栽(大極殿)



修景植栽(大極殿)



修景植栽(小安殿(後殿))



修景植栽(小安殿(後殿))



修景植栽・張芝(小安殿(後殿))



修景植栽



修景植栽



修景植栽(朝堂院)



修景植栽(朝堂院)



修景植栽(朝堂院)



修景植栽(朝堂院)



修景植栽(朝堂院)



修景植栽(朝堂院)



修景植栽・張芝(朝堂院)



修景植栽(内裏内郭築地)



修景植栽(内裏内郭築地)



修景植栽(内裏内郭築地)



修景植栽(内裏内郭築地)



修景植栽(築地跡)



修景植栽(築地跡)



修景植栽(築地跡)



修景植栽(築地跡)



修景植栽・張芝(築地跡)

4-10 図

■ 便益施設



公園案内所(外観)



公園案内所(内観)



公園案内所(展示)



公園案内所(展示)

		
公園案内所(展示・体験)	トイレ(公園案内所併設)	ベンチ
		
ベンチ	ベンチ(擬木)	ベンチ(石材)
4-11 図 歴史的史跡顕彰碑と 大極殿祭		
		
大極殿祭	大極殿祭	(表面) (裏面)
長岡宮大極殿遺蹟顕彰碑(明治 28 年)		
4-12 図 ■道路関連 施設		
		
道路 (市道) 道路 (市道)		

			
道路（市道）	側溝	側溝	
			
側溝	側溝	電柱	
4-13 図 ■顕彰施設			
			
行幸啓碑(平成 22 年)		遷都 1200 年記念碑(昭和 59 年)	
4-14 図 ■住宅関連建築物・ 工作物・植栽			
			
住宅		住宅	
			
住宅	住宅	住宅	

第3節 構成要素の特定



遷都 1200 年記念碑(昭和 59 年)



広場



果樹



植栽



植栽



ベンチ



ベンチ



石段・飛石



石塔



石造物



駐車場



駐車場関連看板



駐車場関連看板



駐車場関連看板

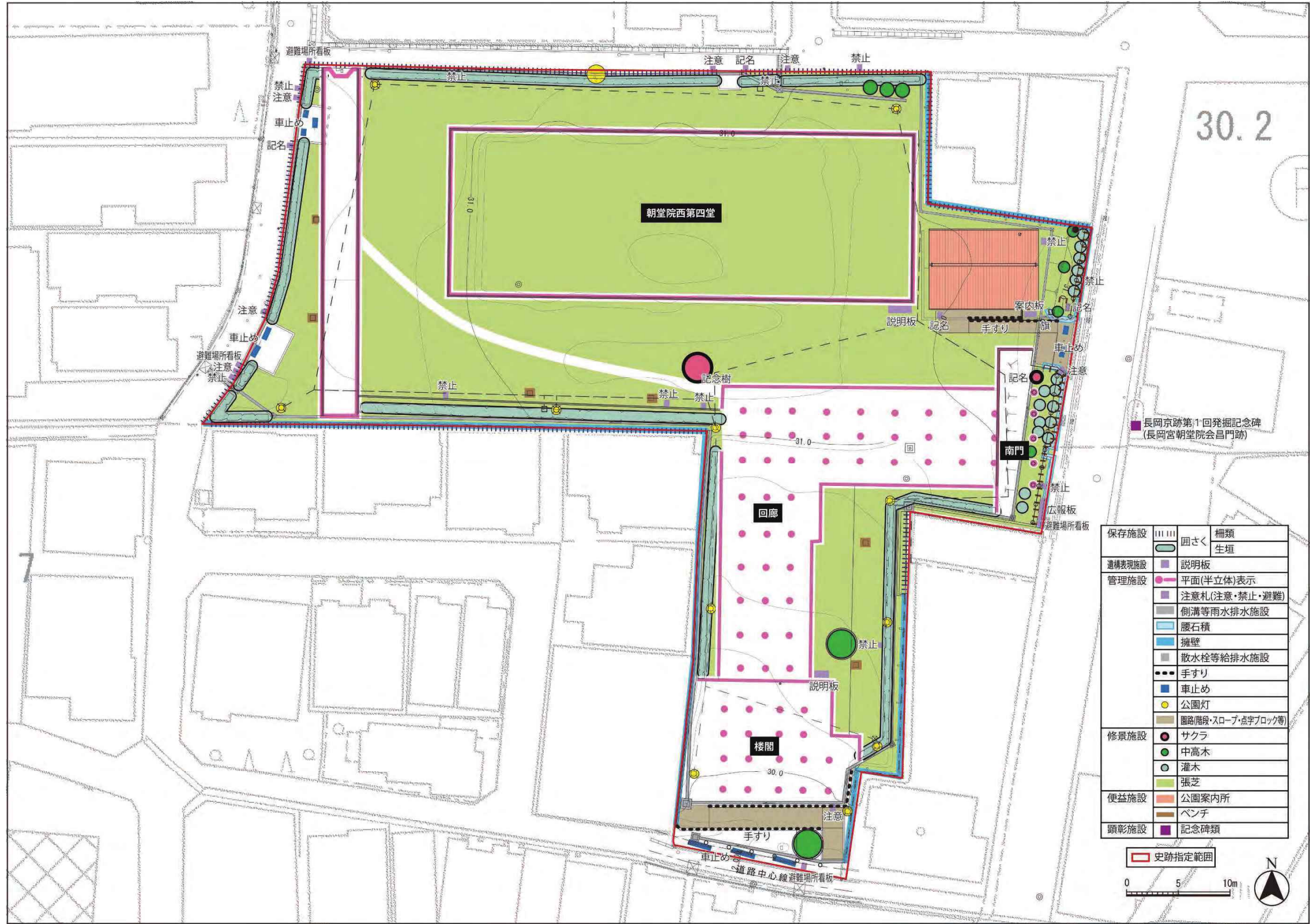


駐車場関連看板





4-16 図 地区別要素図 (大極殿跡・閤門)



4-17 図 地区別要素図（朝堂院・南面回廊）



4-18 図 地区別要素図（内裏内郭築地回廊）



4-19 図 地区別要素図（内裏内郭築地南面回廊・外郭）



4-20 図 地区別要素図（築地）

